

「元気で健やかな子供の成長を見守る安心な社会」について 検討メモ

1. 基本的な考え方

- 東日本大震災やその後の原発事故によって、被災地においては、子供の成育環境に関する課題が顕著に現れており、被災地の復興を進める中で、復興に関わる様々な主体が連携して、地域に芽生える新たな活動を伸ばしつつ、子どもにやさしいまちに向けたモデル的な取組みを迅速に進めることにより、身体運動能力、学ぶ力、たくましく生き抜く力、創造性、挑戦性等の面で、日本で最も高い能力を持ち、かつ、精神面も豊かな子供を育てることができ、地域社会を構築することを目標とする。
- さらに、子どもたちは、今の大人とは異なる新しい時代を生きるとの認識にたって、グローバル化、多文化共生、高度情報化、防災や地球環境への意識の高まり等が進む新時代で持てる力を存分に発揮できるようになるための教育環境を全国に先駆けて整える。
- 成果としての東北モデルを、全国に世界に向けて発信していく。

2. 現状認識（子どもの運動、健康、子育て環境の観点から）

（1）郡山（福島）の子どもたちの現状

- ・ 原発事故による放射線の影響による屋外活動の制限、生活環境の変化やストレス、運動不足、運動能力・体力低下、肥満等の生活習慣病の増加。
- ・ 乳幼児からの体を使った遊びの減少、外遊び、仲間と遊ぶ経験の欠如
- ・ 恐怖体験の記憶、母親のコミュニティ崩壊

（2）津波被災地の子どもたちの現状

- ・ 恐怖体験の記憶、近親者の死亡等によるストレス

- ・ 仮設住宅の建設等による、校庭、空き地等の成育空間の喪失
- ・ 非日常の生活の長期化によるストレス、支援者の疲れ

(3) 子ども成育と環境変化の影響

① 子どもの発育・発達

- ・ 成長と発達の速度は年齢によってその内容や段階が異なる
脳神経系の発達：幼少期（体を動かす能力が最も獲得されやすい時期（8～9歳頃まで））
筋骨格系の発達：中学生以降（体を鍛えるのに最適な時期）
- ・ 幼少期に多彩な動きをしたかが、その後の運動神経の発達に大きく影響
- ・ 幼少期の運動不足・体力低下は、将来の健康リスクの増大等につながるおそれ
- ・ 仲間、空間、時間という「3つの間」の確保が発育にとって重要
- ・ 体力と学力との間には一定の関係がみられる傾向
- ・ 生活再建の差による子どもたちの二極分化、格差の発生

② 我が国全体の子どもをめぐる遊び環境の変化

- ・ 外遊びの減少、ゲーム・テレビの時間増、子どもの運動量の減少、生活時間の分断化
- ・ 全国的に、体力と運動能力が低下傾向、肥満傾向児の増加
- ・ 組織化された競技ではなく、様々な運動遊び、自然遊びを通して多様な動きを身につける必要
- ・ 被災地の問題は、全国の子どもたちが抱えている問題の縮図

(4) 震災で見えてきた『主体的に取り組む子ども』の姿

- ・ 子どもは与えられる・守られる存在ではなく、自らアイデアを紡ぎだして行動することのできる主体
- ・ 子どもの参画は、子どもが課題に対して主体的に問題解決を図るきっかけづくり
- ・ 子どもが参画するまちづくりに住民・大人が参加する次世代参加型のま

ちづくりが重要

3. 検討の方向性（案）

「大人の一年と子どもの一年は違う」（子どもの時代の一年一年は貴重）との認識に立って、スピーディな取り組みが不可欠。また、以下の課題に対して、縦割りを排して一体的に、かつ日本中の人たちの知恵を結集しつつ、取り組みを進めることが重要。

更に、経済界、地方自治体、学会等の間で意識の共有を進めることで、骨太な実行力を生み出す。

（1）子どもの居場所（遊び場、運動の場）づくり

○子どもの年齢にあった遊び場や運動場の迅速な整備

- ・安心・安全な環境
- ・体を使うことに喜びと楽しみを感じられる工夫、自然や自由、安らぎを感じられる環境、運動嫌いの子どもでも思わず体を使った運動をしてしまうような仕掛けづくり
- ・上記の工夫とあわせ、身体の発達に適した運動の質と量を確保できる「場」（屋内型の遊び場、存分に動き回れる全天候型運動場等の工夫された空間を確保）
- ・スポーツ・武道との連帯
- ・子どもたちや母親同士のコミュニティ形成

○プレイリーダーの養成

- ・子どもに寄りそう良き大人がいる遊び場
- ・子どもの興味、関心、創造性を引き出す
- ・動き、遊びの重要性を認識
- ・生活習慣病予防のための食育知識、心のケアにも対応
- ・プレイリーダー（指導員）の養成プログラム（地域の人々の参加を促進）

（2）子どもの成育コミュニティの再構築

- ・学習以外の体験や集団での遊び、異なる年齢との交流といった多様な体験機能を社会の真ん中に置く環境づくり（交流が進みやすい形態の住宅

やコミュニティ活動等)

- ・ 孤立する親、不安を抱える保育士等への対応、家庭、学校、地域の関係の再構築
- ・ 子どもたちの健全な発達を支援する大人の増加

(3) 子どもの成育時間の健全化

- ・ 大人のライフスタイルに影響されない子どもの成育環境の確立
- ・ 外で過ごす時間の確保
- ・ 触れ合い体験と安らぎの時間の確保
- ・ 祭り、自然等の体験による思い出深い時間の確保
- ・ 大人になっても持ち越せる経験を積む社会

(4) 子どもの主体的な参画

子どもの視点から主体的に子どもが元気に育つ復興、まちづくりへの参画を進めることにより、子どもの本来持っているコミュニケーション力、創造力を引き出し、新しい時代への対応力を育成

(5) 子どもの遊び・生活・学習の道具や利用方法の適正化

- ・ TV等のITメディアの適切な利用
- ・ 外遊び、自然遊び、伝承遊び
- ・ 多様な実体験を可能にする生育方法の確保

(他のテーマを含めて引き続き検討する課題)

- ・ 復興推進委員会の検討全体として、子どもたちに「夢のある東北の将来像」を示せるよう取り組む
- ・ 新しい時代に対応する能力の育成等、範囲を拡げて更に検討を行う
- ・ 子ども成育コミュニティ再構築や世代を超えた交流等については、活力ある高齢化社会の領域と連携をしつつ、検討を進める